※令和４年度以降入学生用

学校番号	404

令和５年度　美術科

教科	美術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「美術２」　（光村図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現方式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に見方が広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。　(a) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫しながら身につけ、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。　(b) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。　(c) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に 親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識を理解している。創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成している。創造的な表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫している。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	油彩　模写」	・授業の流れや目標を理解し、主体的に学習する姿勢をつくる。 ・教科書や画集から、好みの名画を選び、表現技法や作品に込められた作者の思いを鑑賞する。 ・構図はもとより、作品の醸し出すイメージ、色の深み、筆のタッチなどを丁寧に捉え、画面表現する。 ・合評会	a:原画の主題や技法について正しく理解している b:原画を観察し特徴を捉えて表現を工夫できている C：より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	彫刻　名画のレリーフ」	・模写の課題で描いた作品をレリーフに起こす。表現技法や作品に込められた思いを感じ取りながら、想像力を働かせて凹凸を刻む。 ・用途に合わせて適切な道具を選びそれらを安全に扱って作品を作る。 ・作品の醸し出すイメージを忠実に再現し着彩する。 ・合評会	a: 表現の用途に合わせた彫刻刀を安全に使用する b: 平面作品の奥行きを想像しながら、工夫して表現している それぞれの作品の良さを感じ取ることができている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
2	籐工芸　かご」	・美術領域と工芸領域の違いを知る。 ・籐編みの技術を学び、屑かごを制作する。 ・色染めした籐を編み込み、好みの模様をつける。	a: 美術領域と工芸領域の違いについて正しく理解している 素材の特性と、特性を生かした技法を正しく理解している 適度な力加減で根気良く作業を継続し、美しい作品を作る技術を身につけている b:出来上がりをイメージして、効果的に模様を入れることができている C：より良い作品作りのために根気よく丁寧に作業している	取組状況 提出物	提出物	取組状況 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	立体塑像　動きを表す」	・「動きを表す言葉」からイメージした形を、立体作品に表現する。 ・制作意図に基づいてデザインしたフォルムを三面図に起こす。 ・石膏粘土で塑像し、彫刻や磨き作業を施す。 ・アクリル絵具で着彩する。 ・合評会	a: 立体作品の必要条件について理解し、留意して制作する 制作意図に基づいてデザインしたフォルムを三面図に起こす b:想像力を働かせ、イメージを膨らませて立体作品に表現する c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
3	自由制作　「フレームアート」	・混合技法によってイメージを表現する。 ・木製Ｂ４パネルを用い、油彩、水彩、コラージュ、レリーフ、工作など、思い思いの技法を使って作品を制作する。 ・各自が制作手順と日程の計画を立て企画書を作成する。 ・合評会	a:制作意図に基づき、主体的に作品を作り出すことができる b:想像力を働かせ、自由で柔軟な発想で作品を制作できる c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度